

Y27b 全天モニタ画像公開システムの開発

小澤友彦(紀美野町みさと天文台), 国立天文台岡山天体物理観測所, 広島大学東広島天文台, 国立天文台 SMOKA グループ

全天モニタによる画像は、天候等の観測状況を把握し、データの質や信頼性を判断する上で重要である。SMOKAでは、観測データに加え全天モニタ画像の保管、公開も行ってきた。

近年、全天モニタにデジタル一眼レフカメラが用いられるようになり、暗夜には M31 銀河や M42 オリオン星雲、天の川が写るほど高感度・高解像度の画像が得られるようになった。その画像からは、日周運動や星座の季節変化、月や惑星の動きを知ることができ、教材開発に有益である。また流星の研究や移動天体・突発天体の研究への利用も期待されている。

そこで本研究では教育的利用を主眼とした全天モニタ画像公開システムの開発を行った。対象は、SMOKA に収蔵された画像のうち、デジタル一眼レフカメラを用いた岡山天体物理観測所と東広島天文台の画像である。本システムでは、ユーザが指定した日時の検索に加え、星座の季節変化を追うための同時刻の検索や、惑星の運行がわかるよう同じ地方恒星時の画像検索機能を持つ。また SMOKA では縮小した画像を公開しているが、本システムではより高解像度の画像を取得翌日に公開することをめざし、3月20日からの試験公開を予定している。

本講演では、本システムの機能概要や対象とする画像の特徴などを紹介し、今後拡充していく検索機能や結果の出力方法などについて議論する。